優秀賞

行ってらっしゃい、気をつけてね

佐賀県　武雄市立御船が丘小学校六年　小鉢　円稔

母さんはうるさい。最近は特にうるさい様な気がする。朝起こしに来た瞬間から、夜寝る前まで、とにかくいろいろ言ってくる。小言。そして小言じゃない、ただのおしゃべりも。僕に言いたい事が、たくさんあるらしい。

僕は朝が苦手だ。何とか体を動かして起きる。僕の気配を感じると母の声が降って来る。

「おはよう、ごはん食べちゃって！」

（…わかってる。）

「今日は何か持っていくものある？」

（…大丈夫。）

「今になって宿題してるの？」

（…もうすぐ終わるって。）

「もう時間よ。準備して！」

（…ノート無くなったんだった。「ノート」。）

「今頃言わないで！買い置きあった！」

「あと五分だよ！急いで！」

「返事くらいしたらいいと思うけど！」

「あ～間に合わない！遅刻するよ!!」

朝の母さんはせわしない。口も動きも。僕は準備を整えてリビングから出る。

「行ってきます！」

出来るだけ大きめの声で言う。父さんに。小さい頃から、はっきりとあいさつをするように言われているから。

母さんといっしょに車に乗り込む。時間の無い時は、学校の近くまで送ってもらう。僕を送る間の数分の車内でも、なぜ朝の準備が間に合わないのか、とか、今日の母の予定とか、塾に行く時間とか、次々に口から言葉が出てくる。僕はただうなずく。運転中の母さんからは見えないから、しまいには返事をしないとおこられる。

「学校でも朝からきげん悪くしているの？」

（はい？きげん悪い？何の事？）

「学校に行けば絶好調!!行ってきます！」

「行ってらっしゃい、気をつけてね。」

母さんからいつもの一言が返ってくる。どんなにおこっている日も、体調が悪そうな日も、ごきげんな日も、いつも同じ。穏やかな口調。忘れずに、必ず言ってくれる一言。

なぜ「気を付けてね」と付け加えるのか、母さんに聞いてみた事がある。母さんは、おまじないをかけていると言った。どんなに心配でも大切な家族それぞれの行き先について行く事は無理だから、外出先で何かあっても気をつけて、また私の所へ帰って来れるようにというおまじないをかけていると。

その話を聞いてからは、僕も「気をつけてね」のおまじないをかけている。そういえば父さんも。無事を祈る、家族を守る言葉。気をつけようと気を引きしめる言葉。一人じゃないと思える言葉。今日も母さんは、僕におまじないをかけてくれる。

「行ってらっしゃい、気をつけてね。」

と。そして、僕もかけ続ける。大切な人に、おまじないを。

「行ってらっしゃい。気をつけてね。」